

世界遺産を活用したまちづくり



せとかてつお
瀬高哲雄
じつこう
日光市長(栃木県)



わたなべりゅうご
渡辺竜五
さど
佐渡市長(新潟県)



司会・コーディネーター
ほその すけひろ
細野 助博
中央大学名誉教授



やすだ そうへい
安田壮平
あまみ
奄美市長(鹿児島県)



すどう ひでただ
須藤秀忠
ふじのみや
富士宮市長(静岡県)

世界遺産条約に基づき、「世界遺産リスト」に記載された、顕著な普遍的価値を持つ建造物や遺跡、景観、自然などを指す「世界遺産」。令和7年8月現在、世界遺産は文化遺産972件、自然遺産235件、複合遺産41件の計1248件がリストに記載されており、そのうち日本からは令和6年に登録された「佐渡島の金山」を含め、文化遺産21件、自然遺産5件の計26件が記載されています。登録を受けた地域では、保全・継承に力を入れるとともに、観光振興をはじめ、まちづくりに積極的に活用し、地域活性化を図っています。

座談会では、世界遺産の登録を受け、構成資産の保全・継承を進めながら、まちづくりに活用する渡辺・佐渡市長、瀬高・日光市長、須藤・富士宮市長、安田・奄美市長にお集まりいただき、各都市の世界遺産の特徴やまちづくりへの活用策、世界遺産登録がもたらした諸効果、現時点の課題、今後の展望などについて、幅広く語っていただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

わがまちの世界遺産

細野 本日は、厳格な世界基準に基づいた審査を経て、世界遺産に登録された都市の市長にお集まりいただきました。まずはそれぞれの世界遺産の特徴や、登録後のまちづくりの内容などについてお聞きしたいと思います。

渡辺 佐渡の鉱山開発は16世紀末から本格化



し、江戸時代には日本最大の金銀山として世界有数の産出量を誇りました。当時、海外では既に機械による採掘法が導入されていました。佐渡では採掘から精錬まで高度な手工業で行われ、独自の技術を磨いていきました。こうした伝統的な鉱山技術が高く評価され、令和6年、佐渡島の金山は世界文化遺産に登録されました。振り返ると、佐渡における登録運動は民間主導で始まりましたが、登録までに要した期間は、実に30年弱。この間、関係者のモチベーションの維持が大きな課題でした。

佐渡市は、順徳上皇や日蓮聖人、能楽を大成した世阿弥らが流罪となって流された地で、彼らによって都の風俗がもたらされました。そこに、鉱山の繁栄で、全国各地から多くの人々が集まるにつれて、町並みが整備され、各種なりわいが定着するとともに、島内各地で能や鬼太鼓などが演じられるようになりました。今でも日本の能舞台の約3分の1が市内にあるともいわれており、芸能が盛んです。近年は、世界遺産の登録を機に、鉱山の関連施設にとどまらず、この地で育まれた、伝統的な暮らしや文化を築しんでもらう観光施策に力を入れています。

瀬高 日光市は全国で3番目に面積が広い市です。日光東照宮をはじめとした伝統的な社寺のほかにも、ラムサール条約に登録された湿原や、奥日光の入り口に位置する中禅寺湖、東京の奥座敷と呼ばれている鬼怒川温泉をはじめとした温泉群、日本の近代産業の発展を支えた足尾銅山など、多くの観光資源が点在する、世界的に

知られた観光都市です。

中でも、市内を訪れる観光客の約6割もの人たちが足を運ぶのが、世界遺産エリアを含む日光地域です。日光山内にある、日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社などの貴重な建造物群に加え、これらの建造物群を取り巻く、文化的景観までを対象にした遺産が、平成11年に関東地方で初めて世界文化遺産に登録されました。

日光市では、平成4年に世界遺産登録に向けた国の暫定一覧表への掲載を機に、まちを挙げた登録運動が本格化し、懸案だった日光山内地区の史跡指定など、そのプロセスを着実に進めてきました。登録の一報が入った際には、まち全体が沸き返ったと聞いています。昨年は登録25周年を記念した各種行事・イベントを実施したところ です。



手工業で行われた 独自の鉱山採掘・精錬技術が 高く評価され、世界文化遺産に 登録されました。



渡辺 竜五
佐渡市長(新潟県)

須藤 富士山は、信仰の対象であるとともに、芸術の源泉として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきました。平成25年には、その文化的価値が認められ、「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。

富士宮市は富士山の南西麓にある都市で、全国に1300余社ある浅間神社の総本宮「富士山本宮浅間大社」や、名勝・天然記念物にも指定されている「白糸の滝」など、世界遺産としての価値を証明する六つの構成資産を有しています。また、豊かな湧水や農畜産物、歴史文化を生かした魅力ある地域資源も多数存在しています。

富士宮市の中心市街地には、富士山本宮浅間大社、静岡県富士山世界遺産センターがあり、両施設を結ぶように、富士山の伏流水が湧き出る湧玉池を源流とする清流・神田川が流れています。富士宮市では、このロケーションを生かして、世界遺産にふさわしい品格のあるまちづくりを進めようと、「清流の美」「空間の美」「庭園の美」をコンセプトに居心地の良い心の癒やされる空間整備に取り組んでいます。

安田 琉球列島の四つの島々「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、多くの絶滅危惧種・固有種の生息・生育地であり、生物多様性上、重要な地域です。この点が評価され、令和3年、世界自然遺産に登録されました。奄美市は国内で唯一、世界自然遺産を有する市です。

環境省の主導で、奄美大島が国内の世界自然遺産候補地に選定されてから18年もの歳月を要し、延期勧告を受けるなど、大きな苦労を伴いましたが、関係者の力を結集して、登録を実現させることができました。世界遺産を生かして、価値ある地域づくりを進める上でも、私としてはこの苦労が意味があったと感じています。

登録後、奄美大島の5市町村と連携して「生



江戸時代に発展を遂げた佐渡の能文化。島内各地の能舞台でさまざまな演目が上演される(佐渡市)

物多様性地域戦略」を策定するとともに、以前から進められてきた外来種対策の継続、市内2カ所での自主ルールの設定・運用など、さまざまな取り組みを推進。令和6年には、特定外来生物・マンギースの根絶が宣言されたほか、希少な生物の個体数も順調に回復してきました。

また、世界遺産を生かした地域づくりをより活発に進めるには、多くの市民に世界遺産を身近に感じてもらう、自分事として関心を持つってもらうことも必要です。そこで、市長就任直後から、世界遺産の登録効果を地域振興に生かす方策などを公民で議論する「世界自然遺産保全・



交通渋滞が大きな課題。
河川敷を開放した
無料駐車場の開設をはじめ
各種対策を進めています。

瀬高 哲雄
日光市長(栃木県)

活用プラットフォーム」の創設にも取り組みました。

世界遺産の登録効果

細野 世界遺産に登録されたことで、どのような効果が表れているのか、お聞かせください。

安田 奄美市における最も大きな効果は、子どもたちの地域に対する誇り、愛着が深まったこととです。世界自然遺産の登録、奄美群島国立公園の指定などに向けて、これまで小中学校では、地域の伝統文化や自然、産業などを学ぶ郷土教育を、高校では、地域をテーマにした探究的学習を実施してきました。私が子どもの頃は、地元のことを学校で学ぶ機会はほとんどありませんでしたから、大きな進化です。

奄美大島には大学がないため、高校卒業後、多くの生徒が一度は島を離れます。しかし、こうした地元愛を深める教育は、大人になってから、経験を積んで地域に帰ってくる土台として大きな役割を果たすと期待しています。

渡辺 世界遺産を生かしたまちづくりを盛り上げていくためには、多くの住民に「役割」を持ってもらうことが重要だと考えています。佐渡市では、長らくトキの野生復帰に向けた活動を展開していますが、この活動で大きな役割を担っているのは、農家の皆さんです。

トキの野生復帰を実現するためには、餌場となる水田の環境を改善する必要があります。そこで、佐渡市では、「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度を設け、農薬や化学肥料を減らして農業を行う環境保全型農業の普及に取り組んだところ、多くの農家の皆さんに協力してもらったことができました。

農業と世界遺産は無関係と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。江戸時代、全国から集まった人たちの食糧を確保するた



「日光の社寺」の門前町では、歩道拡幅、電柱地中化などの町並み整備を推進(日光市)

め、佐渡では鉾山技術を生かして、海岸段丘上に新田を開発し、多くの棚田が形成されました。かつて最後の野生のトキが生息していたのも島内の棚田です。その意味でも農業と世界遺産は密接につながっているのです。

瀬高 登録から四半世紀が経過しましたが、市内では観光関係者や市民が世界遺産の構成資産をベースに、観光資源を活用しながら、誘客活動などに懸命に取り組んでいます。また、構成資産の保全体制の整備に加え、ユネスコ協会を中心に「世界遺産環境調査」も継続的に実施しています。

世界遺産にふさわしい 品格のあるまちづくりを進めるため 中心市街地一帯の整備を 進めてきました。



須藤 秀忠
富士宮市長(静岡県)

さらに、日光市では、長年にわたり「日光の社寺」の門前町において、町並み整備を進めてきました。これに伴い、美しくなった町並みや景観をどう活用して、まちづくりを進めるかという観点から、住民主体のワーキンググループ

による検討も重ねられ、まちづくり規範の作成なども進んでいます。

須藤 世界文化遺産に登録されたことにより、富士山が信仰や歴史、文化と深く結びついた存在であることが改めて認識され、市民の心の中に「自分たちが守り伝えていくべき価値ある遺産」という意識が広がりました。市民自らがガイドボランティアとして観光客を受け入れ、富士山の持つ信仰や歴史を伝えようとす

る動きが広がり、現在では全ての構成資産で活躍していただいております。また、市内の小中学校でも、総合的な学習として、児童生徒が地域に関心を持ち、各自で学習テーマを決めて、探究していく「富士山学習」を実施しています。さらに、地域が誇る世界遺産の「山」を巡る国際交流も進んでいます。令和7年には、世界最高峰の山エベレストを望むネパールのマンダン・デウプール自治体と世界遺産文化交流都市提携を締結し、交流を深めています。

課題をいかに乗り越えるか

細野 世界遺産を活用したまちづくりを進めるに当たって、どのような課題に直面しているのか、その解決に向けての対策なども教えてください。

瀬高 大きな課題は、交通渋滞です。大型連休



富士宮市の中心市街地を流れる清流・神田川と富士山(富士宮市)

や紅葉期など、一定期間に限られますが、主要道路は非常に混雑します。その対策として、日光市としても、河川敷を開放した無料駐車場の開設、渋滞情報のリアルタイム配信、交通渋滞が集中する日時を避けたオフピーク観光の推奨など、各種取り組みを進めています。

日光市では50年以上前に、路面電車が運行していた時期がありました。宇都宮市では、次世代型路面電車(LRT)を導入し、利用者数も着実に増加するなど、大きな成果を得ましたが、日光市でもかつて路面電車が走っていたスペースに専用レーンを設ければ、LRTの運行は可能です。観光客や市民の利便性を考慮すれば、こうした新たな公共交通システムの導入についても、将来的に検討する余地はあると考えています。

安田 外来生物への対策を進めた結果、アマミ



安田 壮平
奄美市長(鹿児島県)

生物多様性の保存に向けて 島を挙げて外来種対策を推進。 希少な生物も順調に 回復しています。

ノクロウサギなど、希少な野生生物の回復が見られるようになった反面、近年は、ロードキル(野生生物の交通事故)防止を呼びかけているにもかかわらず、夜間のロードキルが増えています。また、逆にアマミノクロウサギによる農作

物被害も発生するなど、野生生物との共生に向けて、新たな課題も生まれています。

さらに、昨年は、国の天然記念物であるオカヤドカリを密猟し、許可なく持ち出そうとした事件も発生しました。運よく宿泊施設の関係者が気付き、迅速な通報で逮捕に至りましたが、罰則が軽いことから、同様の事件が再発する可能性があります。そのため、国にはより重い厳罰化を提案しています。

須藤 富士山は例年、冬季は登山道を閉鎖し、立ち入りが禁止されています。にもかかわらず、近年、あえて冬季の富士登山を強行する人もいて、けがや遭難事故が多発しています。法律上、救助費用は自治体が負担することになっていますが、ルールを無視した冬季の富士登山の抑制のためにも、救助費用については、当事者に自己負担を求める制度を導入するよう、静岡県知事や地元国会議員に要望しました。

また、富士宮市では、富士山の景観を阻害する大規模メガソーラーの設置を条例により規制しています。世界遺産の景観を守るため、全国の世界遺産を持つ自治体の皆さまにも共通する課題として取り組んでいただく必要があると思います。

渡辺 平成16年に市町村合併で佐渡市が誕生する前は、島内に10市町村がありました。かつてはトキの野生復帰運動に関しても、また、世界遺産の登録運動においても、熱心に活動するのは島内の一部自治体に限られるなど、温度差があったのも事実です。そこは大きな課題でした

が、佐渡市としての一体感が増すにつれて、島を挙げた運動に変わっていききました。

実際、近年は世界遺産の盛り上がり背景に、市内各地で新たな活動や取り組みが見られるようになっていきます。令和6年には、佐渡金山より産出する酸化鉄を含む赤土である「無名異土」を用いた焼き物「佐渡無名異焼」が伝統的工芸品の指定を受けたほか、江戸時代に金銀の積出港として整備された小木町が、重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

また、旧三井物産の初代社長となった益田孝のひ孫の方が、佐渡の再生を目指す人材育成の



奄美市とNPO法人ゆいむすび実行委員会との共催でビーチクリーンの活動を実施(奄美市)

「佐渡塾」を立ち上げたり、夜の海をライトアップして楽しむマリナーアクティビティ「ナイトSUP」の事業化を進める若者も出てきたりと、新しい試みにチャレンジする人も出ています。こうした活動をしっかりと応援していくのも、市の役割だと考えています。

瀬高 実は、日光市では登録から四半世紀が経過していながら、まだ世界遺産センターを設置できていません。現在、公共施設の統廃合を進めている中で、新たにセンターを整備するのは



ハードルが高いのも事実で、これも大きな課題です。皆さんの都市では、既にセンターを設置していると思いますが、何かアドバイスをいただけませんか。

須藤 平成29年に、静岡県が市の中心市街地に「静岡県富士山世界遺産センター」を設置しました。世界的建築家・坂茂氏による設計で、建築的にも評価が高く、令和6年には来館者150万人を達成するなど、市の観光振興に大きく貢献しています。

安田 奄美大島では、世界遺産登録の翌年の令和4年に「奄美大島世界遺産センター」を開設しました。整備自体は環境省が行い、環境省・県・島内5市町村で構成する管理運営協議会が費用と人員を分担して運営しています。

渡辺 佐渡市では、国の補助金を受けて、市が「佐渡金銀山ガイダンス施設 さらりうむ佐渡」を設置しました。佐渡金銀山や地域文化の魅力が分かりやすく紹介されて、訪れた人には大変好評ですが、鉱山エリアから離れた地域に立地しているため、全ての観光客がこのガイダンス施設に足を運ぶわけではありません。その意味では、設置場所が非常に重要だと思います。

世界遺産を生かし、より魅力のあるまちへ

細野 最後に今後の展望をお聞かせください。

瀬高 日光市では令和元年度から毎年のように、ふるさと納税の寄附額が最高額を更新しており、令和6年度は13億円を突破しました。返礼品は、市を訪れる際に利用可能な食事券や旅



行クーポン券など、観光関連商品が人気です。冒頭に申し上げたように、日光市には有名な観光地が点在しています。特に、奥日光エリアは高級ホテルが進出するなど、人気が高まっています。世界遺産都市の知名度も生かし、ふるさと納税を上手に活用しながら、より観光に磨きをかけ、「稼げる」まちをつくりたいです。

須藤 富士宮市は、富士山の湧水をはじめ、素晴らしい自然に囲まれています。また、その湧水を用いた四つの酒蔵が市内で営業しており、



細野 助博
中央大学名誉教授

いずれも日本酒の鑑評会で金賞を受賞するなど、高い評価を受けています。富士宮市では、こうした資源を生かして、観光を盛り上げていきたいと考えていますが、大きな問題がありません。それは、市内に宿泊施設が少ないために、通過型観光になってしまっていることです。

そこで、富士宮市では、独自の補助制度を設けた上で、中心市街地への宿泊施設の誘致に取り組んでいます。既に駅前には建物1棟を貸し切るヴィラタイプの町屋型宿泊施設の建設が決定しました。併せて、今後は集客施設の整備・誘致にも力を入れていく計画です。

安田 奄美市はこれまで夏を中心に海の観光が中心でしたが、森や山などのアクティビティも充実させて、季節を問わず誘客していきたいと考えています。特に、奄美市の山林には、この島でしか見られない、希少な生物が多数生息しています。ぜひ、ガイドの皆さんと散策を楽しんでいただきたいですね。

また、島内には奄美群島でしか製造されてい

ない奄美黒糖焼酎、伝統的な織物である本場奄美大島紬^{つむぎ}など、魅力的な文化も息づいています。酒蔵ツーリズムや機織り体験など、地域の文化、産業を体験できるメニューも増やしていきたいです。さらに、観光客も巻き込みながら、外来生物の駆除活動や、ビーチクリーンをはじめとした環境保護活動も展開したい。生物多様性や環境に配慮したライフスタイルについて、共に考え、行動するきっかけとなるような観光・交流体験を提供できればと考えています。

渡辺 近年、働き方も大きく変わり、どこにいてもオンラインで仕事ができるようになりましたよね。こうした世の中の流れに合わせて、ぜひ交流人口、関係人口を呼び込み、佐渡市で暮らす豊かさを実感してもらいたい。そのためにも、地域のファンづくりは重要です。

その一環として、佐渡市では民間企業と連携して、未就学のお子さんを地域の保育園に通わせながら、家族で1週間から2週間ほど市内に滞在し、佐渡の文化を楽しんでもらう「保育園留学」を始めました。また、市直営の金井能楽堂では、芸能の鑑賞に加えて、実際に能舞台上がって能や鬼太鼓の体験ができるプログラムも始めました。このような取り組みを通じて、多くの人たちに佐渡で暮らす豊かさを実感してもらい、二地域居住や移住、定住につなげていく。そうした地域づくりに挑戦していきたいと考えています。

細野 本日は、世界遺産をてこにして、いかに効果的なまちづくりを進めていこうとするのか



について、お聞かせいただきました。各市長のお話から、世界遺産は地域資源を再発見し、それを磨き上げるよい契機になっていること、さらに、行政と市民、観光客が共に手を取り合っ

てまちづくりを進める、よいきっかけにもなっていることがよく分かりました。今後も、市民や観光客を含め、さまざまな主体と連携して、まちの魅力を高めていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

(令和8年1月27日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。